

第33回 横浜市環境創造審議会会議録	
議題	1 横浜市環境管理計画2023年度の推進状況について（報告） 2 新たな横浜市環境管理計画の策定スケジュール等について（報告） 3 横浜市地球温暖化対策実行計画2023年度の実施状況について（報告） 4 その他
日時	令和6年11月19日（火）14時～16時
場所	横浜市役所18階共用会議室 みなと1・2・3
出席委員	進士 五十八（会長）、佐土原 聡（副会長）、長岡 裕（副会長）、 亀屋 隆志、川辺 みどり、川本 守彦、小堀 洋美、坂井 文、佐藤 一子、 杉岡 正敏、田澤 重幸、中村 雅子、藤倉 まなみ、吉野 富雄（14名） ※敬称略、会長・副会長以下50音順
欠席委員	奥 真美、高梨 雅明、田島 夏与、長瀬 康夫（4名） ※敬称略、50音順
開催形態	公開（傍聴人1名）
資料	1 議事次第 2 資料1 : 横浜市環境創造審議会 委員・幹事名簿 3 資料2-1 : 横浜市環境管理計画2023年度の推進状況 4 資料2-2 : 【参考資料】2024年度横浜市環境管理計画年次報告書 5 資料3 : 新たな横浜市環境管理計画の策定スケジュール等について 6 資料4 : 横浜市地球温暖化対策実行計画2023年度の実施状況について 7 参考資料1 : 横浜市環境管理計画 8 参考資料2 : 横浜市地球温暖化対策実行計画 9 参考資料3 : 横浜市地球温暖化対策実行計画（市役所編）

（進士会長）

進士と申します。よろしくお願ひします。ウェブ参加の先生方もよろしくお願ひします。  
本日の議題は、3つすべて報告案件です。色々と御意見いただき、報告書に反映することになりますので、是非、積極的に御発言いただければと思います。  
それでは議題1について、事務局から説明をお願ひします。

## 議 事

### 1 横浜市環境管理計画 2023 年度の推進状況について

（関根みどり環境局戦略企画課長）

「資料2-1」説明

（進士会長）

ありがとうございました。質問も含めて御意見を頂戴したいと思います。  
報告書ですが、コラムを作ったり、最初の特集ページで公園を特別に扱って全体像を見せたりという努力を色々と工夫をされたようですが、いかがでしょうか。小堀委員御意見ありませんか。

(小堀委員)

大変良くできていると思いますが、地球温暖化、サーキュラーエコノミー、地域の課題解決、生物多様性は複雑な問題群なので、背景にある様々な課題も含めた包括的総合的なアプローチで取り組まないと目に見える効果が無いと考えています。そのため、個別のアプローチだけでなく、包括的統合的な視点を加えてほしいと思います。

報告書は進士会長からあったように大変良い構成になっていると思います。それぞれ具体的なことは区で実施しているものが多いため、それがもう少し見える形にさせていただくと実際どのようなことをしているか分かるかと思います。

それから生物多様性については、市民意識調査結果で、回答者の約7割は言葉を聞いたことがあるとなっていますが、生物多様性を守るために何をしたら良いかわからないという回答は7割です。これは大いに工夫をしていかなければいけないと思います。1つには、地球温暖化による影響については様々なことが災害として顕在化していますので、皆さんの意識関心も高くなっていると思います。しかし、地球温暖化と生物多様性はコインの裏表の関係にあり、地球温暖化の適応策としても生物多様性が大事ということを皆さんに知っていただく努力をしていく必要があります。良い事例についても、知らない方々に伝わるよう横浜で取り組んでいる良い事例を年次報告書に入れてほしいと思います。

それから「基本施策3 水とみどり」ですが、結構、横浜市が行っているよい事例があります。例えば、雨水貯留池等です。また、横浜市には雨を貯留する雨庭のある公園もありますが、雨水を貯留するだけでなく、在来の樹木や草本などを植えることによって水が地面に浸透し、表流水として流れないようにすることができます。それから在来種を植えることで在来の昆虫や蝶等、受粉を媒介する生物がやってくるなどの多面的な生物多様性の機能、さらにグリーンインフラの機能を同時に高めることができます。雨庭は非常に盛んになっており、市民参加ができ、このような皆が関われる取組をもっと増やしてほしいと思っています。良い事例は目に見える形で報告書にさせていただけるとありがたいと思っています。

(進士会長)

ありがとうございました。雨庭とはレインガーデンのことですか。

(小堀委員)

レインガーデンのことです。

(進士会長)

要するに水循環ということで、全体で考えるということだと思います。水循環は災害や資源とつながるなど色々あります。環境の話は、これまで生物多様性や気候変動、脱炭素化という、やや理科的な説明になっていました。環境管理計画は環境シフトが全然無い時

代に政府が環境シフトにしようとして始まりました。そのため、個別法が沢山あり、個々のことは個別法でカバーしているため、むしろ全体をきちんとやらないといけないということで作られています。だから、現実には理料的に取り組まないといけません。この環境管理計画は環境を大きく捉えるという目的で作られています。横浜が初めて環境と人、環境と経済、環境とまちづくり、というように環境について大きく、くくりました。トータルに環境を見ていかなければいけないということで、そこには企業の働きが極めて大きいわけです。そのように御理解いただけるとありがたいと思います。

それでは、坂井委員よろしく申し上げます。

(坂井委員)

私が最も気になったことは、資料2-1の16ページ、基本施策7に「環境に関心があり、行動している市民の割合」は8割強とあるにも関わらず、資料2-1の5ページにあるアンケートにおいては、「行動したいが、何をすれば良いかわからない」が7割となっていることが一番気になっています。この結果から、「行動したいと思っているが、どのように実践にしたら良いかわからない」というところをどう解消すれば良いか次年度に向けて考えていただきたい、考えなければいけないと思いました。おそらく、人づくりや教育ということになるのかもしれませんが、それだけではなく、行動変容のような行動を少し変えることによって変わってくるということをどうやって伝えていくべきなのか、報告書にどれくらい書き込めるかわからないですが、是非、次年度から記載いただきたいと思えます。

(進士会長)

ありがとうございました。具体的に先生の分野で良いアイデアはありませんか。

(坂井委員)

よく言われることですが、ニューヨーク等では多数の市民がアプリを通して街路樹の状況を報告することができます。今は必ずこのアプリというか、手のひらで何かできるということが一番手っ取り早く環境行動を起こすことにつながるので、自分が見て気になったことをすぐ誰かに的確な場所に伝えることができるという、アクセスの方法を増やす、チャンネルを増やすことはあるのかと思いました。

(進士会長)

ありがとうございました。

もう20数年前ですが、川崎市にある富士通の研究所では、今、坂井先生がおっしゃったようなことを多摩川の自然観察で始めました。多摩川を散歩しながらGPS機能付携帯電話※のカメラで植物を撮影するとすぐ名前や性質等がわかります。そういうことはやってい

ましたが、市が取り組むかというのはまた別です。

それでは、藤倉委員お願いします。

※事務局補記：富士通ソフトが取り組んでいた携帯フォトシステム・クラウドサービスを利用した調査プロジェクト。GPS 機能のついた携帯電話やスマートフォンで生き物の写真を撮り、メールに添付して送信すると、データがデータベースに蓄積され、そのデータをインターネット上で地図情報として閲覧できるシステム。

(藤倉委員)

資料2-1の6ページの「身の回りの環境についてどう感じていますか」の選択肢で「花や緑を感じられる」や「大気汚染や騒音がない」というのは、市民が身の回りで感じる環境の良さを表しています。しかし1つだけ、「気候変動による影響がある」という、マイナスの選択肢を入れています。これは、他の選択肢と比較して、非常に違和感があります。どのように市民がこれを捉えているのか、もう少し選択肢の並び順や表現を工夫した方が良いのではないかと思います。

また、この市民意識調査は毎年同じように行っていると思いますが、区別や年齢別に分析をしてどのような層に対しどのようなアプローチをするのがもっと効果的か、どのようなところに問題があるのか、例えば審議会の資料としてはもう少し詳しく出してもらっても良いと感じました。身の回りで花や緑を感じるかどうかは、区によって全然違うと思いますので。

もう1点、年次報告書では、例えば先ほど話題になった環境と経済などがしっかり取り上げられておりますし、それについて重点的にやってらっしゃるのは分かりますが、例えば、地球温暖化のための融資・補助というのがやはりまだメインになっているように思います。例えば、自然関連財務情報を開示している企業には、経済面での融資について補助や優遇するといったようなESG投資的な取組を市の財源配分についても、もう少し取り組んだら良いのではないかと常々考えていますので意見として申し上げておきます。

(進士会長)

ありがとうございました。それでは、杉岡委員お願いします。

(杉岡委員)

会長からの御説明で横浜市環境管理計画が非常に思いを持って市民に寄り添った形で行われていることが非常によくわかりました。資料2-1の4ページの脱炭素に向けてのアンケートですが、常にできる範囲で行動している方が減っていて、行動したいという方が増えているというのは、ニュアンスとしては横浜市ではどのように受け止めていますか。その背景としては、私は企業、経営者側からの立場ですが、脱炭素及び資源リサイクルという意味でケミカルリサイクルを推進していこうと、本当に神奈川県各企業が頑張ってい

ます。そのケミカルリサイクルを促進していくために、例えば、ゴミの分別をもう少し徹底していただくと、PCBの問題もありますので、助かります。分別をさらに徹底していただくとケミカルリサイクルの方法が、とても大きく変わるということがありますので、市民の皆様の意識を高めてぜひ企業と市民と連携した形のケミカルリサイクルを進めていくような形ができないかと思っています。そのため、この辺りの市民の意識やこれからもっと分別することに対し、お聞きしたいと思います。

(進士会長)

ありがとうございました。事務局お答えできますか。

(大屋脱炭素・GREEN×EXPO 推進局脱炭素計画推進課長)

御指摘のありました「行動したい・行動したいと思っている」方の割合ですが、冒頭の局長挨拶にありましたように局再編に伴い、4月から脱炭素ライフスタイル推進課ができております。市民・事業者の皆様の行動変容を促していこうということで、今、取り組んでおりますので、行動したいと思っている方がきちんと行動できて、実際行動していると言ってもらえるようにきちんと取り組んでいきたいと思っています。

(進士会長)

杉岡委員の趣旨は、一般的に分別には取り組んではいますが、もう少し分別を細かくすると、後の始末がすごく変わるということです。確かに国によっても違いますし、国内でも地域によって随分と分別が違います。それは、土地の事情と消費量の影響が大きいわけので、そういう工夫はどうかということです。

(近藤資源循環局政策調整課長)

横浜市では、10月から今までプラスチック包装製品だけ分別してリサイクルしていたものをプラスチックで出来たラップやタッパーといったものも分けてリサイクルしようとしているところです。9区で始まったばかりですが、来年4月から全区展開していくというところです。ただ、おっしゃるように全部のプラスチックがリサイクルできるというものではないので、技術の進化などを見据えながらリサイクルは進めていきたいと考えております。

(進士会長)

よろしいですか。吉野委員いかがでしょうか。

(吉野委員)

確認ですが、資料2-1の9ページの基本政策1のポスターの選手が引退表明しました、

これはどうなるのか。

また、「基本施策3 水とみどり」についてですが、港北ニュータウンに家を建てた時に屋根の雨水を6,000リットル貯水できるよう地下に貯水槽を作りました。しかし、これを個人で浄水するととても経費がかかるため浄水は断念しました。都筑区は、ニュータウンをはじめ、みどりを大切にしよう、十分に残そうとしていますが、南側の農業専用地区では、なかなか後継者が繋がっていかないということを聞きます。トラクターや作業機を利用できる畑になってはいますが、なかなか担い手はいません。また、一般の個人の方たちが家庭菜園をしています、良い悪いは別として無農薬で行っています。そうすると、専業の畑に虫が来るため、それを防ぐための資材を投入しなければいけないという費用もかかって大変ということもあります。農業政策の中で補助金等を十分していただいていると思いますが、その辺りの割合を考えていただきたいです。農専地区は災害時には仮設住宅などのために無償で明け渡すとなっています。そのやりくりが大変だと思いますが、せっかく農地が残っているため、後世に残していただきたいと思います。

私の畑では、小学校1年生から3年生の子ども達に野菜の栽培体験を行っています。今年は、女子児童が大きくなったら「農家さんをやる」と話した子どもがいて嬉しくなりました。中には、お母様が「うちは農家じゃないから、そんなことはやらない」と、そういう言い方をする方もいますが、みどりというか食に関して、自分たちの生活をしていく上で必要なこと、環境の中でやれるものはみんなで行おうという意識付けを子どもの頃から教えることも大切かと思えます。

(進士会長)

ありがとうございました。吉野委員のおっしゃるとおりですね。事務局から何かありますか。

(内田みどり環境局農政部長)

吉野委員がおっしゃられたことですが、横浜市にも農政部署があり、私自身、現場を日々回り色々な情報や課題を現場レベルで対応していると、吉野委員と同じように課題があると感じます。

市の施策としましては、農業の担い手を支援する取組とみどりアップ計画という市民向けの取組を2本の柱として対応しております。食や農に関心の高い方が非常に増えており、農家の農業経営と農業専用地区の中での市民向けの活動が両立できないかということで、農政事務所の職員が現場を回り、対応しながら進めております。担い手が減っているというのは、全くそのとおりなのですが、いろんな話しの中では、最近、子どもの世代は農業をやらないが孫の世代では割と関心の高い方が多いというようなことも聞いておりますので、農業への関心が高まっている中、我々も担い手を確保していくという意味で、しっかり進めていきたいと思えます。

(進士会長)

ありがとうございました。佐土原委員、御意見ございませんか。

(佐土原副会長)

手短に、3点ほどお伝えします。

1点目は、非常に暑熱化が進んでいる最近の状況や災害が多く起こっている状況などを記載できないでしょうか。この後に出てくる項目は比較的それぞれの項目が独立して記載されているため、全体をどう読んでほしいかというような、今の時代の状況を少し強く押し出すような部分があるといろんな項目の位置づけがわかりやすくなるのでないかと思いました。

2点目は、報告書 34 ページにエネルギー消費量が出ていまして、19 パーセント削減というのはかなり大きなことだと思います。コロナの状況や何か反映された分があるのかどうかということも少し入れておいていただくと要因などがわかりやすいと思います。それから今後のために、データセンターで電力が増えるというような話がある中で、横浜はどうなるのかというのが気になりました。

3点目は、生活感覚ですが、樹木に関して立ち枯れや枯れて伐採されたことにより、樹林地の密度が薄くなっている、相当樹木が弱っているという感じを持っています。質の問題みたいなことはどうなっているのか、それについて何か書かれていることがあるのかそこについて伺えればと思います。

(進士会長)

3点目はおそらくナラ枯れのことですね。全国的なものです。自然というのはサクセッションし、変わっていきます。事務局から回答をお願いします。

(門林脱炭素・GREEN×EXPO推進局脱炭素社会移行推進担当部長)

コロナによる影響などということですが、後ほど地球温暖化対策実行計画の報告でも御説明させていただきますが、コロナが発生した2020年度は緊急事態宣言もあり、社会経済が一気に停止したということがありましたので、エネルギー消費量については一旦減っています。その後、少しずつ運輸などが動きだし、翌年の2021年度のエネルギー消費量は増えている状況になります。そこからコロナが終息をして通常経済状況に戻ってきているため、2022年度は逆にエネルギー消費量は毎年度の減少傾向と同じような水準で落ちてきているとういことです。通常どおりの日本経済の状況に少しずつ戻ってきているというのがエネルギー消費量を見てもわかりますし、CO<sub>2</sub>の排出量で見ても同じ傾向があります。

(進士会長)

今のお答えはそれで良いでしょう。

今回の報告書は最初に公園とゴミが特集になっており、良い工夫だと思います。公園側は公園のことを、ゴミ側はゴミのことを伝えたいという特集は良いと思います。ただ、佐土原先生がおっしゃりたいのは、一般市民に気候変動と言わなくても豪雨や災害のニュースが全国で起きていて、皆さん気候変動が身に染みているわけです。そのため、身近な横浜で何が起きているのかということに記載すると、市民の心を掴めるだろうというアドバイスだと思います。そういうことを少し工夫されてはいかがでしょうか。

(佐藤委員)

私は現場で日々市民の方と接しており、今回、横浜市地球温暖化対策推進協議会の取組で横浜市青葉区気候市民会議を立ち上げました。無作為抽出の 3,000 名に案内を送り、手を挙げていただいた 50 名で青葉区をどのような脱炭素のまちにしようかと議論し、提案を作りました。そして、それらの提案を実践する会を立ち上げました。これまで協議会等で脱炭素について、多くの方々に伝えてきたつもりでしたが、青葉区に行くくと脱炭素に関する情報がほとんどなく、市民に情報が届いていないということを実感しました。(市民意識調査結果からもわかるように) 脱炭素に関心がある、重要だと思っけていても、何をして良いかわからないという状況です。やはり、地域に核を作る、地域に担い手を作ることが一番大事だと思います。もう少し区役所と市と協議会のような中間組織や地域の中の担い手が上手く連携できる仕組みづくりに区役所の協力を得られるといった方法を考えていただきたいと実感をしています。

また、環境教育について、川崎市や厚木市の学校から依頼はありますが、横浜市の学校からはほとんど依頼がありません。私が代表を務めるソフトエネルギープロジェクトはまさに脱炭素をテーマとしているため、学校側が依頼しづらいかもしれませんが、横浜市の学校で緑やりサイクルだけでなく脱炭素のことも伝えていけたら良いと思っています。

(進士会長)

ありがとうございます。

(川辺委員)

2点確認させていただきたいことがあります。

1点目は、資料2-1の「基本施策6 生活環境」で、環境目標の達成状況、大気も水質もなかなか良い状況ですが、光化学オキシダントだけが達成ゼロになっています。達成地点がゼロになっている原因はお分かりなんでしょうか。

(土田みどり環境局環境保全部長)

光化学オキシダントの原因物質と言われているのが、二酸化窒素と揮発性物質であるV



OCが光化学オキシダントを生成するといわれています。この両方の原因物質は公害がひどい頃と比べると、両方とも濃度が下がっています。しかし、光化学オキシダントの濃度自体は全国的にあまり下がっていません。そのため、環境基準の達成状況は横浜だけでなく日本全国でほぼ0パーセントという状況にあります。原因物質の濃度が下がっているのになぜ光化学オキシダントの濃度が下がらないのかは、国の専門家でもはっきりした結論が出せていない状況で、研究途上だと聞いております。

(川辺委員)

ありがとうございます。二酸化窒素、VOCの濃度が下がっていますが、光化学オキシダントは下がっていないということで理解しました。

もう1点、報告書21ページの下水汚泥から肥料を作るということで、下水汚泥からリンを回収し、それを肥料化するという、リンの回収は、海の有機汚濁の改善のためにも進めていただきたいところでした。横浜市が実際に取り組んでいることは素晴らしいことだと思います。もっとアピールしても良い部分だと思います。ただ、回収したリンの安全性の確認と安全性のアピールはやらなくても良いのかと疑問に思うのですが、これについてお分かりでしたらお願いします。

(内田みどり環境局農政部長)

下水部門と農業部門が連携しながら下水再生リンの肥料化に取り組んでいます。リンは化学的な方法で抽出していますので、重金属等はほぼ無いと言って良いと考えております。この辺りは、今後使用していただく農業者や市民の方々にしっかりお知らせし、また最終的には消費者にもお知らせすることが、非常に大事な視点だと我々も考えておりますので、理解を得られるように進めていきたいと思っております。

(川辺委員)

ありがとうございました。

素晴らしいことだと思いますので、ぜひアピールしていただければと思います。

(進士会長)

ありがとうございました。

それでは、議題2に進めさせていただき、後ほどまとめてご発言をいただきましょう。事務局から説明をお願いします。

## 2 新たな横浜市環境管理計画の策定スケジュール等について

(関根みどり環境局戦略企画課長)

「資料3」説明

(進士会長)

御説明ありがとうございます。

環境管理計画の絵柄を子どもたちから募集するそうです。確かに環境管理計画という言葉からして、なかなか難しいかもしれませんが、これから環境の時代を子ども達がどういうイメージで描くかというのは楽しみです。ぜひ応援してあげてください。

それでは、スケジュールについては、説明のあったとおり進めたいと思います。皆さんもパブリックコメントに参加できますので、新しいフェーズの御意見も頂戴できればと思います。

それでは、議題3について事務局から説明をお願いします。

### 3 横浜市地球温暖化対策実行計画 2023 年度の実施状況について（報告）

(大屋脱炭素・GREEN×EXPO 推進局脱炭素計画推進課長)

「資料4」説明

(進士会長)

ありがとうございました。

報告全体としていかがでしょう。脱温暖化から今度は、脱炭素化になりました。杉岡委員いかがですか。

(杉岡委員)

さらに市民の皆様と企業と連携していけたら良いと思います。

(進士会長)

目標はだいぶクリアしていますし、横浜市はやはり総量が大きいですので、家庭の話はなかなか辛いですね。田澤委員いかがでしょうか。

(田澤委員)

本日、色々拝聴させていただきまして、たいへんよく資料にまとめていただいて、取組も立派な素晴らしいものだと思います。もう2年半後に「GREEN×EXPO 2027」があります。これを起点にしてガーデンシティ横浜をもっともっと進化していただければと思います。都市に緑があるのではなくて、緑の中に都市があるようまちづくりをしていただいたら素晴らしいなと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

(進士会長)

ありがとうございました。他委員からはいかがでしょう。

(長岡副会長)

先ほども指摘がありましたが、市民の意識のところですか。先ほど御説明していただいた資料2-2の102ページのアンケート(環境に関する市民意識調査の結果)に基づいて、資料4の18ページの「脱炭素に向けて行動する市民の割合」の結果が記載されている差と思いますが、回答者の半分が60歳以上です。やはりもう少し若い世代がどのように思っているのかというのが、大切だと思いますので、このアンケートの取り方ももう少し工夫した方が良いという印象が非常にあります。ぜひその辺りお願いいたします。

(進士会長)

ありがとうございます。

(佐藤委員)

横浜市地球温暖化対策推進協議会が18区の区民祭りに参加して、家庭でできる脱炭素アンケートを今年は約3,000枚行っています。アンケートに来るのは若い親子ですが、子どもが小学生だったらアンケートをしてもらい、だいたい15項目くらいはマルが付き、1つか2つはサンカクが付きます。学校でよく教えているのでしょうか。一方、30代40代の親は2つか3つマルが付きます。特にこの年代は、仕事等で忙しくなかなか地域の活動もできていませんし、行動もなかなかできない。この親の年代にどう伝えるか、どう変わってもらえるかが、これからの担い手づくりに大事だと思います。子どもの方がよほど理解していると実感しています。

(進士会長)

ありがとうございます。藤倉委員、どうぞ。

(藤倉委員)

1点だけ、東京都のような、個人住宅の新築の際に太陽光パネル設置を義務付けるようなことを横浜市では考えていらっしゃらないのでしょうか。

(門林脱炭素・GREEN×EXPO推進局脱炭素社会移行推進担当部長)

太陽光パネル設置の義務化ですが、供給側の方に基本的に規制をかけるという動きがあることは、我々も承知はしております。一方で、物価の上昇等もあり、太陽光パネルの価格も上昇するとなると、住宅自体の単価が上がってくる部分もあるかと思います。そういったところも踏まえ、横浜市としては基本的には慎重に見守っているという状況です。

太陽光パネルにつきましては、神奈川県が取り組んでいる例えばゼロ円ソーラーなどのように、初期投資をかけず、家の屋根等を事業者にも場所貸しして、事業者が太陽光パネル

を設置し10年間使った後は基本的にはその施設自体をその家の所有者に譲り渡すというような制度もあります。様々な補助メニューが出てきておりますし、特に東京の動きは我々も非常に気になるところです。そういった動きも見据えながら、太陽光パネルについては、加速化していかなければいけない状況です。現状としては周辺都市の状況を見守っており、積極的に義務化するという考えは今のところ持っておりません。

(藤倉委員)

ありがとうございました。

(小堀委員)

私も藤倉先生の考えに賛成です。長期的に見ればマイナスではなくて、誰にとってもプラスとなる施策だと思います。それから、賃貸の住宅を提供する業者なども、すべてそういう方法を行っている企業もあります。個人住宅だけでなく賃貸住宅の会社にも義務付けるという、もう少しキメの細かい方法で太陽光の利用を進めていただきたい。やはり日本は欧州と比べて非常に遅れています。

それから、次世代の太陽電池であるペロブスカイトを進めるということは大変良いと思います。中国等は成功して300億円ほどかけて取り組んでいます、日本はまだまだです。こういうものを横浜で試験的に支援していただきたいと思います。どこでも取り付けられる太陽光フィルムなので、LEDなどの光からも発電ができます。多くのメリットがありますし、将来的にはコストも通常より安くなると予測されています。広範囲の方に利用していただくための資金が足りないところが、大きな課題です。

それから、先ほどの資料3の3ページ目の「新たな環境管理計画の策定に向けた基本的な考え方」ですが、「2国内外の動向」に、「プラネタリーバウンダリーを守っていく」と記載がありますが、最新の報告では、9項目のうち6項目が地球の限界を超えた危険な状態と評価されています。生物多様性も温暖化も6項目に入っています。すでに守っていく状態ではなく、それを超えた状態をどのようにやっていくかという点に焦点を合わせていただきたいと思います。

(進士会長)

ありがとうございました。

それでは、3つの議題についてご報告いただきました。皆さんご了承いただいたと思いますが、それでよろしいですね。

最後に事務局から何かありますか。

#### 4 その他

(事務局)

今後の環境創造審議会の検討事項について連絡です。来年度から水と緑の基本計画の改定検討に着手したいと考えております。改定にあたり、皆様に御意見を伺うため、審議会や部会の開催を予定しております。現時点では夏頃に審議会を開催させていただきたいと考えておりますので、日程が近づきましたら改めて日程調整のご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

(鈴木局長)

最後によろしいですか。本日は長時間にわたり、どうもありがとうございました。我々の中でも検討する中で気づかないような、本当に貴重な御意見やお話をいただきました。環境管理計画が総合的に環境政策を進めるうえで非常に意味があるということをお話しいただきまして、まさにその通りだと思いながら話を聞かせていただきました。全体としては、暑熱対策等のお話しもいただきましたが、世の中において環境のどういうところに皆さんの関心があるか、どういうことを思っているのか、市民目線でしっかり捉えていたと思います。それと同時に市民意識として、何をすれば良いかわからないというところにも、しっかり向き合って考えていかなければいけないと思いました。おっしゃっていただいた公園やゴミといった分野で分けるのではなく、総合的に捉えてどうしたら良いのかということも考えていきたいと思えます。

話の中で各区という言葉もありましたが、情報の伝え方ということに課題があると思います。新しいテーマとしては、E S G、融資、農業の支援等々の話がありました。いずれも我々として非常に励みにもなりますが、個々の課題に向き合うということ、しっかりと取り組まなければいけないということで、意識を新たにしたいと思えます。今後とも御意見いただきながらしっかりと取り組んでいきたいと思えます。本日はありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

(進士会長)

局長、まとめていただいてありがとうございます。私は、環境問題はとても大事だと思っておりますが、限られた時間でどのように議論をするか、例えば報告書に審議会委員のページのコラムを作ってしっかり自身の意見を書くというやり方もあります。

つまり、審議会が集まって議論するだけでなく、報告書でも意見表明ができます。市民からの意見も量・質を決めて報告書に入れることもできます。

ただ、報告書を議論するためにこれだけの時間がかかりました。何百万人もいる横浜の意見をどうまとめるかはなかなか難しいですが、私の提案は、例えばそういうことです。そして、区でやるべきことと市全体でやるべきことをきちんと整理します。

もう1つは、イベントとしての設定もあります。GREEN×EXPOが間もなく開催しますが、いきなり博覧会が始まるのではなく、その前から市が主催して市民と会話できる場を作り、対話集会等を行う方法もあります。今までの歴史の中たくさんありますし、横浜で

もありました。行政的なきちんとした答えを出さなくても良いと思います。これだけの多くの意見があることを、皆さんが共有できれば、もっと関心が向きます。

行政の役割は、主体的に横浜の現状を踏まえて、こうあったら良いということを知りやすく伝えることであり、言葉の意味だけを理解しているかどうかを問うことではありません。本質は、環境問題は自分たちの生存に関係する重要な問題であるので、暮らしや経済やいろんな面で考えることです。是非ご検討いただければと思います。

以上となります。皆様お疲れ様でした。本日はありがとうございました。

(事務局)

本日は貴重な御意見をいただきありがとうございました。これをもちまして第33回横浜市環境創造審議会を終了いたします。

(了)